

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

認知症の人と家族の生活を 地域で支える方策に関する研究

先進医療データ管理室

武田 章敬 室長

平成26年2月13日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活するために、その地域において医療サービス・介護サービス・インフォーマルサービスを含む多様な社会資源が整備されるとともに、それらが連携して機能し、認知症の人や家族を切れ目なく支援する必要がある。これまでに国や自治体が様々な認知症施策を行ってきたが、どのような施策が有効であるか明らかにされていない。

演者らは認知症の人を介護する家族、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所を対象として「認知症の人の地域での住みやすさや便利さに関する実態調査」を2年間の間隔をおいて2回行った。その結果、地域で住む人や働く人の協力や認知症に対応できる医療機関の整備、介護保険サービス事業所の充実、情報の得やすさが認知症の人の住みやすさや便利さと相関し、専門医や小規模多機能型居宅介護事業所の数が多い地域は認知症の人にとって住みやすく、便利な地域である可能性を示し、認知症疾患医療センターの指定や認知症地域資源マップの作成が効果的であることを示した。

本報告会においては、上記調査結果の他、「認知症地域資源マップ作成マニュアルの作成」や「認知症の救急医療の実態に関する研究」の調査結果の概要についても報告する。